

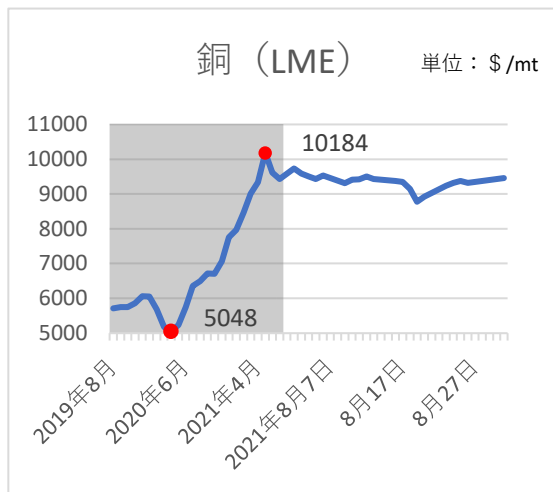
# 非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

## 銅

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ 中旬までは \$9,500 近辺を推移
- ・ 8月19日は米金融引き締めや中国規制強化懸念などで小幅に下落し、4月1日以来の安値となる \$8,775.50

(2019年8月～2021年7月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際銅研究会(ICSG)の8月20日発表によると、2021年1～5月の世界の銅需給実績は以下のとおりで、需給バランスは8.0万tの供給過多だった。

<2021年1～5月の世界の銅需給実績表>

単位: 千トン

	2021年1～5月 実績	2020年1～5月 実績	増減率	2021年年間予測 (2021年5月発表)
鉱石生産	8,594	8,200	+4.8%	21,321
地金生産	10,278	9,890	+3.9%	25,167
地金消費	10,198	9,769	+4.4%	25,088
需給バランス	+80	+121		+79

(うち、中国の銅需給実績)

	2021年1～5月 実績	2020年1～5月 実績	増減率
鉱石生産	745	670	+11.3%
地金生産	4,243	3,947	+7.5%
地金消費	5,529	5,268	+4.9%

(出典) 国際銅研究会

### 3. 供給障害

- ◆ テック・リソーシズ、山火事によりハイランド・バレー・カッパー銅鉱山の操業を一時停止(加)

テック・リソーシズ(加)は、山火事の影響により8月14日から17日の間、カナダ・ブリティッシュコロンビア州のハイランド・バレー・カッパー銅鉱山の操業を停止した。同州では記録的な熱波により山火事が多発しており、14日には同鉱山があるローガンレイク地区で避難指示が発令。必要最低人員を除いた全従業員が避難を行い、操業を停止した。その後、避難指示の解除を受けて、18日から順次操業を再開した。

ハイランド・バレー・カッパー銅鉱山は2020年に11.9万tの銅を生産。テック・リソーシズは同鉱山の2021年生産計画量を12.8~13.3万tとしていたが、山火事による操業リスクが沈静化した後、必要に応じて見直す予定であるとしている。

- ◆ MMG、ラス・バンバス銅鉱山の輸送道路で地元住民が一時道路封鎖(ペルー)

中国五鉱集団子会社のMMG(豪)がペルー南部のアプリアマク州で操業するラス・バンバス銅鉱山において、7月から8月にかけてクスコ州チュンビビルカス郡の住民による輸送道路の封鎖が断続的に行われた。同地区では、通行車両による環境被害の抗議のため7月23日から道路封鎖を実施。8月2日にペルー政府が協議を行い封鎖は解除されたが、11日に予定されていた協議会にMMGが出席しなかったことで、16日から再び封鎖を開始した。その後、8月18日にペルー政府から、ベリド首相との会合を28日に行うという提案を受け、封鎖を解除した。なお、MMGはこの道路封鎖に関するコメントに応じていない。

ラス・バンバス銅鉱山では操業を開始した2015年以降、地元住民による地役権の補償や環境汚染への抗議のための道路封鎖がほぼ毎年発生している。2020年は31.1万tの銅を生産した。

- ◆ JX 金属、カセロネス銅鉱山でストライキ発生(チリ)

JX 金属は、子会社のSCM ミネラルミナ・カッパー・チリ(MLCC)がチリ北部のアタカマ州で操業するカセロネス銅鉱山において、8月10日から労働組合のストライキが開始されたことを発表した。新たな労働協約についてMLCCと同社採鉱部門の労働組合との協議が合意に至らなかった。操業は同組合員以外の従業員で継続するとしている。

カセロネス銅鉱山は2020年に12.7万tの銅を生産。JX 金属は2021年2月に三井金属鉱業と三井物産から全権益を取得し、100%の権益を保有している。

◆ コデルコ、アンディナ銅鉱山でストライキ発生(チリ)

コデルコ(チリ)は、チリ中部のバルパライソ州で操業するアンディナ銅鉱山において、8月12日から労働組合のストライキが開始されたことを発表した。ストライキを開始したのは主要労働組合である統一労働産業組合(SIIL)と統一労働組合(SUT)で、合わせて約1,100人の従業員が所属している。労働組合側は、提案された新たな労働契約案について、医療手当の廃止や新規労働者の手当と銅価格上昇に伴う新たな提案がないことなどを理由に合意が出来なかったとしている。労働組合関係者は、このストライキにより同鉱山の操業は停止されているとしたが、コデルコは操業の状況についてコメントしなかった。

その後、コデルコは8月17日から施設オペレーターが所属する第三労働組合もストライキに加わり、合わせて3つの労働組合によりストライキが実施されていることを発表した。アンディナ銅鉱山の2020年の銅生産量は18.4万tで、コデルコの総生産量の約10%を占めている。

◆ アントファガスタ、ロス・ペランブレス銅鉱山の干ばつにより2021年生産計画量を下方修正(チリ)

アントファガスタ(チリ)は8月19日、チリ中部のコキンボ州で操業するロス・ペランブレス銅鉱山における干ばつにより、同社の2021年銅生産計画量を73~76万tから71~74万tに下方修正することを発表した。チリ中部では記録的な干ばつとなった2019年よりもさらに降水量が少ない状況にあるとしている。さらにアントファガスタは、2022年の減産リスクにも言及。現在建設中の淡水化プラントは2022年下半期の稼働開始を予定していることから、2022年6~9月の雨季まで降雨がない場合、最大で5万tの銅生産に影響があるとした。

ロス・ペランブレス銅鉱山は2020年に37.2万tの銅を生産。権益保有比率はアントファガスタが60%、JX金属が15.79%、三菱マテリアルが10%、丸紅が9.21%、三菱商事が5%。

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

8月2日	8月4日	8月10日	8月13日	8月18日	8月20日	8月24日	8月27日
1,110	1,090	1,080	1,090	1,060	1,030	1,060	1,070

### 2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2021年7月分=令和3年7月分)

	2021年7月	2021年6月比	2020年7月比
生産	130,876 t	+3.3%	-2.9%
出荷	131,485 t	+5.8%	-5.2%
在庫	97,247 t	-0.6%	-14.1%

(出典)日本鉱業協会

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は3か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は3か月連続の減少。内訳は内販が前月比1.7%減、前年同月比31.7%増の7.9万tで、それぞれ2か月ぶりの減少と5か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比21.6%増の4.9万tで5か月連続の増加、伸銅品向けは前年同月比63.8%増の2.9万tで4か月連続の増加。在庫は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は4か月連続の減少となった。

### 3. 需要部門別動向

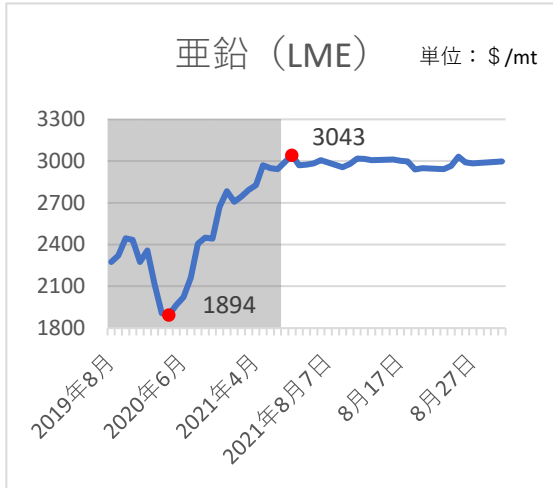
(一社)日本電線工業会によると、2021年7月の銅電線出荷は前年同月比3.8%増の5.6万t(推定)と4か月連続の増加となった。うち内需は前年同月比1.4%増の5.3万tで5か月連続の増加、輸出は136.6%増の2,200tで4か月連続の増加。内需の部門別では、電気機械が11か月連続、自動車が10か月連続の増加、建設・電販が2か月連続、電力が6か月連続、通信が6か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2021年7月の伸銅品生産は前年同月比48.8%増の6.6万t(速報)と7か月連続の増加となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比53.8%増で10か月連続の増加。自動車端子向けの黄銅条は87.7%増で9か月連続の増加。コネクタ向けの青銅板条は44.8%増で5か月連続の増加。エアコン向けの銅管は21.8%増で4か月連続の増加となった。

## 亜鉛

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ 前月に引き続き \$2,900 台から \$3,000 台を推移

(2019年8月～2021年7月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の8月23日発表によると、2021年1～6月の世界の亜鉛需給実績は以下のとおりで、需給バランスは3.6万tの供給過多だった。

<2021年1～6月の世界の亜鉛需給実績表>

単位: 千トン

	2021年1～6月 実績	2020年1～6月 実績	増減率	2021年年間予測 (2021年4月発表)
鉱石生産	6,297	5,617	+12.1%	12,924
地金生産	6,972	6,661	+4.7%	14,128
地金消費	6,936	6,276	+10.5%	13,775
需給バランス	+36	+385		+353

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2021年1～6月 実績	2020年1～6月 実績	増減率
鉱石生産	1,923	1,810	+6.2%
精鉱輸入	895	964	-7.2%
地金生産	3,197	3,020	+5.9%
地金輸入	266	201	+32.2%
地金消費	3,338	3,075	+8.5%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

8月2日	8月5日	8月16日	8月20日	8月26日
385	376	385	379	388

### 2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2021年7月分=令和3年7月分)

	2021年7月	2021年6月比	2020年7月比
生産	28,752 t	-35.7%	+10.8%
出荷	45,477 t	+6.9%	+19.2%
在庫	54,285 t	-23.6%	-18.6%

(出典)日本鋳業協会

生産は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は5か月連続の増加となった。出荷は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は10か月連続の増加となった。在庫は前月比が4か月ぶりの減少、前年同月比は8か月連続の減少となった。

### 3. 需要部門動向

2021年6月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比72.4%増の79.6万tで、4か月連続の増加となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2021年6月の伸銅品生産は前年同月比49.5%増の69,012t(確報値)で、6か月連続の増加となった。黄銅製品では、黄銅条が92.7%増の9,031tで8か月連続の増加。黄銅棒が50.2%増の16,499tで5か月連続の増加となった。

### 亜鉛関連製品生産統計(2021年6月分=令和3年6月分)

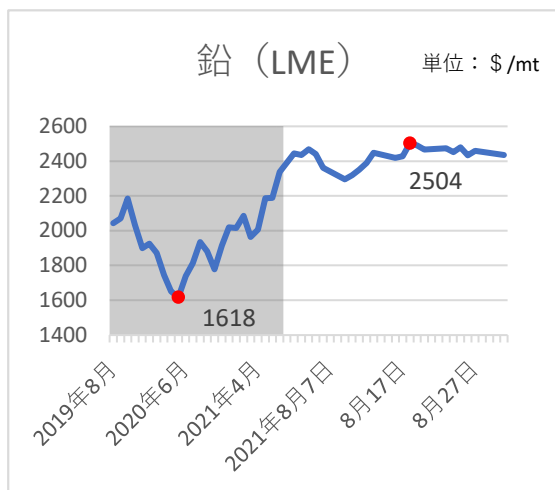
	2021年6月	2021年5月比	2020年6月比
亜鉛めっき鋼板	796千t	-0.2%	+72.4%
黄銅製品	28,847 t	+18.4%	+63.5%
亜鉛ダイカスト	1,475 t	-21.5%	+54.1%
酸化亜鉛(亜鉛華)	5,839 t	+15.7%	+68.0%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

## 鉛

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ \$2,300 近辺から \$2,500 近辺を推移
- ・ 8月18日は2018年6月以来の高値となる \$2,504

(2019年8月～2021年7月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の8月23日発表によると、2021年1～6月の世界の鉛需給実績は以下のとおりで、需給バランスは7.1万tの供給過多だった。

<2021年1～6月の世界の鉛需給実績表>

単位：千トン

	2021年1～6月 実績	2020年1～6月 実績	増減率	2021年年間予測 (2021年4月発表)
鉱石生産	2,227	2,100	+6.1%	4,748
地金生産	6,108	5,639	+8.3%	12,068
地金消費	6,037	5,490	+10.0%	11,972
需給バランス	+71	+149		+96

(うち、中国の鉛需給実績)

	2021年1～6月 実績	2020年1～6月 実績	増減率
鉱石生産	899	884	+1.7%
精鉱輸入	302	318	-5.2%
地金生産	2,546	2,315	+10.0%
地金輸入	12	18	-34.9%
地金消費	2,437	2,324	+4.8%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

8月2日	8月19日
321	327

### 2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2021年7月分=令和3年7月分)

	2021年7月	2021年6月比	2020年7月比
生産	18,342 t	+12.4%	+11.0%
出荷	17,571 t	-2.4%	+6.7%
在庫	12,535 t	+4.9%	-39.9%

(出典)日本鉱業協会

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は3か月ぶりの増加となった。出荷は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は6か月連続の増加となった。在庫は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は9か月連続の減少となった。

### 3. 需要部門動向

2021年6月の自動車生産台数は前年同月比43.6%増の73.7万台で、4か月連続の増加となった。また、二輪車生産台数は前年同月比78.1%増の5.7万台で、5か月連続の増加となった。

(一社)電池工業会によると、2021年6月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で180.9万個(前年同月比18%増)と4か月連続の増加、自動車用以外の鉛蓄電池は46.9万個(3%増)と6か月ぶりの増加となった。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は227.8万個(15%増)となった。

### 鉛関連製品生産統計(2021年6月分=令和3年6月分)

	2021年6月	2021年5月比	2020年6月比
自動車	737,420台	+46.7%	+43.6%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	16,718 t	+24.1%	+31.9%

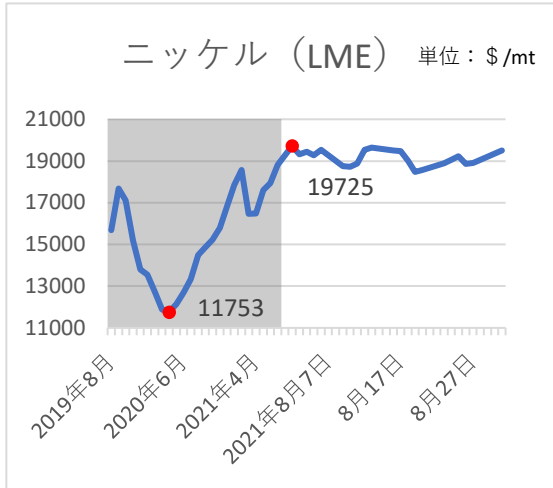
(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査



## ニッケル

### 【海外】

#### 1. 価格推移



・前月に引き続き \$ 18,000 台から \$ 19,000 台を推移

(2019年8月～2021年7月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際ニッケル研究会(INSG)の8月19日発表によると、2021年1～6月の世界のニッケル需給実績は以下のとおりで、需給バランスは8.7万tの供給不足だった。

<2021年1～6月の世界のニッケル需給実績表>

単位：千トン

	2021年1～6月 実績	2020年1～6月 実績	増減率	2021年間予測 (2021年4月発表)
鉱石生産	1,283	1,111	+15.6%	2,824
地金生産	1,295	1,192	+8.6%	2,718
地金消費	1,382	1,118	+23.6%	2,673
需給バランス	-87	+74		+45

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2021年1～6月 実績	2020年1～6月 実績	増減率
鉱石生産	53	52	+2.7%
地金生産	384	367	+4.8%
地金消費	781	639	+22.1%

(出典) 国際ニッケル研究会

### 3. 供給障害

#### ◆ ヴァーレ、ストライキ終了でサドベリー・ニッケル鉱山の操業を再開(加)

ヴァーレ(ブラジル)は8月4日、カナダ・オンタリオ州のサドベリー・ニッケル鉱山の労働組合がストライキを終了したため、8月9日の週から順次操業を再開することを発表した。サドベリー・ニッケル鉱山では賃金や福利厚生に関する労働協約をめぐる、同鉱山の作業員約2,500人が所属する全米鉄鋼労組(USW)第6500支部が6月1日よりストライキを開始し、操業を停止していた。同労働組合によると、合意した今回の労働協約案では大幅な賃金改善や退職者医療制度に加え、3,500米ドルの臨時賞与とCOVID-19禍での労働に対する2,500米ドルの特別手当などが含まれている。

サドベリー・ニッケル鉱山は2020年に4.3万tのニッケルを生産。USW第6500支部による同鉱山でのストライキは、2009年7月から約1年間にわたり続いたストライキ以来の実施となった。

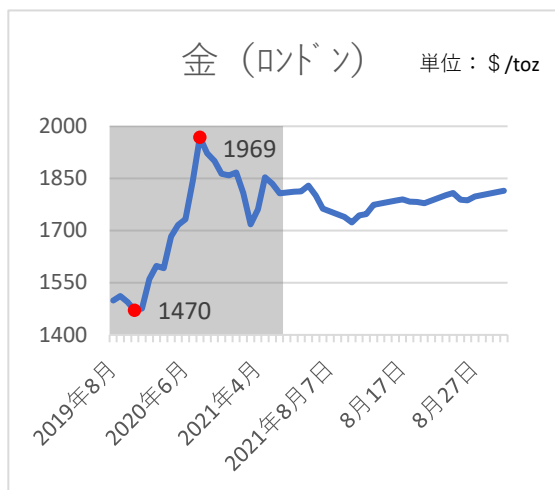
#### 【国内】

#### メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2021年7月分=令和3年7月分)

2021年7月の生産量は2021年6月比1.5%増、2020年7月比16.7%減の4,199tで、それぞれ4か月ぶりの増加と3か月連続の減少となった。

## 金

### 【海外】 価格推移



- ・ 月前半は米インフラ投資法案の上院可決などにより\$1,700 台に下落
- ・ その後は\$1,800 近辺を推移

(2019年8月～2021年7月の値は月平均)

### 【国内】

#### 1. 建値推移(円/g)

8月2日	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月10日	8月11日	8月12日
6,418	6,390	6,370	6,413	6,388	6,182	6,173	6,234
8月13日	8月16日	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月23日	8月24日
6,254	6,297	6,302	6,327	6,338	6,323	6,307	6,388
8月25日	8月26日	8月27日	8月30日	8月31日			
6,370	6,357	6,376	6,452	6,435			

#### 2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2021年7月分=令和3年7月分)

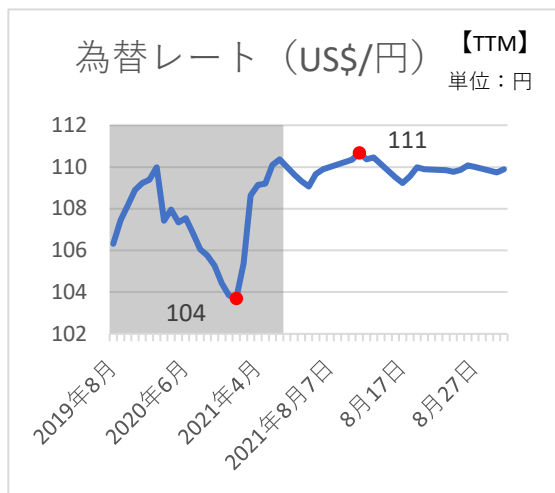
	2021年7月	2021年6月比	2020年7月比
生産	8,977kg	+2.4%	+11.0%
出荷	8,839kg	+1.6%	+8.1%
在庫	4,345kg	+3.3%	+9.7%

(出典)経済産業省生産動態統計調査(生産と出荷の前年同月比については、以前の実績との間で不連続を生じたため、連続性を確保したもので計算)

生産は前月比が3か月連続の増加、前年同月比は4か月連続の増加となった。出荷は前月比、前年同月比ともに3か月連続の増加となった。在庫は前月比が5か月連続の増加、前年同月比は2か月連続の増加となった。

## 為替相場

### 為替相場推移



- ・ 月前半は米インフラ投資法案の上院可決などにより\$1=110円台に上昇
- ・ その後はアフガン情勢や米景況感指数鈍化などで下落

(2019年8月～2021年7月の値は月平均)